

## オニギリを手づかみで食べる

ㄥㄥ 真理は隠れている。探し出すのはあなた自身だ。 小野しまと

☆ ☆ ☆

手づかみで物を食べるのがイヤだという清潔好きな人でも、オニギリを箸でつまんだりはしないでしょう。寿司を握ってもらって箸で食べている人は時々見かけますが、オニギリはだいたい箸でつまむには重すぎます。

どうしてもオニギリは素手でしっかり掴んで食べることになりまし、また、そのほうがオイシサも違いますよね。

手づかみで食べたほうがオイシイといったものは、いくらでもあります。私がフランス人の友とレストランへ行った時でした。ナイフとフォークを使ってチキンソテーを食べていますと、その友が「トリは手づかみで食べるもんだ」と言いました。

妻はいつも、アルコールを浸した綿を小瓶に入れて持っていますので、それを出してもらって、私が両手の指を拭いていますと、友人はビックリして、「それは何だ?」と尋ねました。

「消毒用のアルコールだ。僕は自分の手の汚れが気になるんだ」と答えますと、友人は両手を広げ、肩をすくめて見せたものです。

「ハハハ、日本人は清潔好きだと聞いていたが、君もそうなのか。だが、手づかみで食べたほうが旨いだろう」

「そりゃそうだよ。だから家にいる時は僕だって手づかみで食べるよ。でも、外出した時は色んなものに触りまくるじゃないか。その手でじかに掴むのがイヤなんだ」

「じゃあ、パンを食べる時はどうするんだ。割ったりちぎったりするのに手を使うだろう。まさかナイフやフォークを使ってパンを食べるわけではあるまい」

そう言ったあと、「ちょっと待てよ」と友人は言葉を継ぎました。「そうだ、君はさっきパンをじかに持って食べていたじゃないか。あれはどうなってんだ?」

「ちょっとした工夫があるんだよ」と私は答えました。

フランスのレストランで、パンを清潔に食べる「極意」については、『清潔マニアの快的人生—永遠のキレイを求めて』（ビワコ・エディション版47頁）に詳しく書きましたので、ここでは省略させていただきます。

ただ、日本人が清潔好きだからといって、私のような者ばかりではないということは、この友人にもちゃんと言っておきました。私のマナーが日本人のそれを代表するなどと思われては困るからです。

そのとき私が思い浮かべたのは、日本人のオニギリを食べるやり方でした。私も若い頃はそうだったのですが、たいていはほとんど無頓着に素手で掴んでしまいます。自分の手が汚れているなどとは思ってもみません。たいへん大らかで自然な態度が続いていたと言えます。

ところが、いつごろからだったのでしょうか。コンビニやスーパーなどのオニギリ売場で、包装に凝るようになってきました。ああ、やっぱり日本人は清潔を気にする国民なんだ、オニギリを買ってから食べるまでの清潔な処理のために、色々な工夫を凝らしているんだなと思ったものです。

最初の頃は色々な方式があって、ゴハンとノリとを取り出すのにだいぶ苦勞させられるものもありましたが、最近では、上から引っ張って帯状の紙を切り取り、左右両方の隅を外して、オニギリを取り出す方式に統一されてきたように思います。

これは、オニギリに素手で触れずに、清潔に取り出すための工夫だとばかり思っていたのですが、実はそれよりもむしろ、湿ったゴハンと乾いたノリとを分離しておいて、食べる直前までオニギリの鮮度を保つための、品質管理作戦ではないかと思うようになりました。

こういう包装の仕方を開発してきたコンビニやスーパーの意図がどこにあるのかはよく分かりませんが、おそらく、オイシさを保つということが売側の主たる目的であると同時に、清潔な食べ物がほしいという買う側の気持ちにも配慮した方式と言ってよいのではないのでしょうか。

最近見たNHKの番組（4月26日教育テレビ「にほんごできます」）で、このオニギリの食べ方を日本の若者が外国人に教える場面がありました。何人かの外国人に、包装されたオニギリを渡して、中味を出させるのです。みんな紙を破るのに手こずり、うまく取り出せません。

司会の若者が、「こんなに簡単なんですよ」と言って、帯状の紙を切り取り、左右両脇の三角の袋を外して見せます。開封の仕方を教わった外国人は、もう一度自分でやってみて、「なるほど簡単だ」と言いながら、取り出したオニギリを素手で掴んで食べ始めます。

日本語の読めない外国人が、うまく取り出せなくてまごつくのは当たり前で、それがいかに簡単かと教えるだけなら、オニギリの包装の意味を何も教えたことにはならないでしょう。

私が問題だと思ったのは、袋から取り出したオニギリを、彼らがパンを掴むのと同じように、無造作に素手で持って食べ始めたことでした。

その思いをさらに深くしたのは、司会者が浅草あたりの路上で、数人の観光客を相手に同じことをやった時でした。その若い司会者は、包装の解き方を実際にやって見せたあと、オニギリをノリの上から素手で掴んで、外国人に渡そうとしたのです。

相手はさすがに受け取ろうとはしませんでした。日本人は、ゴハンを平気で手で掴んで食べるし、人にも食べさせようとする。恐らく彼らはそんな印象をもって帰国し、みんなに報告するのではないのでしょうか。

日本に留学していた別の友人は私に言ったものです。パンを素手で持っても汚れない。なぜなら、パンは乾いているから。ゴハンが汚れる。なぜなら、湿っているから、と。

こういう感覚の違いがあるということも考慮に入れるべきでしょう。

最近若い世代がテレビの色々な番組で活躍していますが、清潔には無関心な者が意外に多いのには驚かされます。自分が手づかみにしたり味見をした食べ物でも、平気で人に試食させようとする場面を時々目にします。

中年の出演者が明らかにイヤな表情を見せながらも、カメラの前ではそれを拒否するわけにもいかず、困っているといったシーンにも何度か出会いました。

いずれにせよ、私たちは、清潔とは何かということや清潔のマナーについてもう少し認識を深め、日本の文化を正しく表現し伝えることに努力すべきだと思うのです。

[2007/05/12 magmag]